

経済倶楽部便り

◆東京◆ 10月の講師にお呼びした前財務省事務次官の矢野康治氏に現在の日本の財政状況の問題点と改善策について熱く語って頂きました。

戦局の悪化で中止されていた倶楽部講演録の再刊の辞で石橋湛山氏は預金封鎖に追い込まれた現状に対してこう書いています。「如何に日本の政府乃至国民が愚かでも、今後の財政を年々累増する赤字公債で賄うが如き馬鹿な真似はしないでありましよう」と。が、今の現実はその馬鹿な真似が続いています。矢野氏の注視している視点もそこにあります。掲載は12月号です。さて、恒例の懇親ゴルフ「青空会」ですが、参加

者2組8名で開催。一時雨の子報でしたが、ほとんど降られず盛況のうちに終了できました。

12月の講師は千葉大学法政経済学部教授の酒井啓子氏、東京大学先端科学技術研究センター専任講師の小泉悠氏、日本女子プロゴルフ協会会長の小林浩美氏を予定しています。

◆中部◆ 10月の講師に政治経済アナリストの古賀茂明氏が来名。GDPや製造業の低迷が続く一方で国家債務が世界一という日本。そこからいかに脱却するかについて、目指すべき政治の姿を含め、「効率から公正」、「小さな政府から賢い政府へ」など重要な視点を提示して頂きました。12月の講師はコリアレポート編集長の辺真一氏、経済ストラテジストの市川眞一氏を予定しています。(日暮良一)